

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の医療法人が母体であり、慣れ親しんだ地域で昔からの馴染みの主治医が、継続的に医療ケアを行いながら、安心して生活できる場所を目指しています	○	他市町村からの入居者もみえるため、利用者が安心して地域での生活が送れるよう支援します
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念をホーム内の見やすい位置に提示し、職員が常に意識を持ち、仕事に従事しています	○	職員全員が常に利用者の立場に立ち、その人らしく生活ができるよう支援します
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族に対しては、入居時に契約書・重要事項説明書にて説明し、理解を得ています 地域に対しては、自治会への入会や、運営推進会議の場で説明しています	○	ホームを紹介した広報を回覧板で回していただいたり、家族への通信等を通じて、理解を深めるよう努力しています
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設の紹介パンフレットを自治会協力の下、回覧板に載せてもらい、施設を身近に感じていただけるよう努めています 日常の周辺の散歩時に近隣の方と挨拶を交わしたり、声かけをしています	○	災害対策の備えとしても、近隣との馴染みの関係作りにより、いざというときに助け合えるような体制を築いていきます
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会したり、行事への参加を促しています また、地域の小学校との交流会や、ボランティアによる慰問も定期的に行っています	○	地域行事への参加は、利用者の性格などの問題もあるため、一人ひとりの状態に合った関わりを検討します

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	地域に根ざした施設として、地域貢献できるよう、介護教室等の開催を検討していきます
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	運営者、管理者が主任と話し合い、主任から全職員に通達し、評価を全職員で確認し、意見を出し合い改善に取り組んでいます
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	会議のメンバーは自治会長、民生委員、包括支援センター、各フロア家族代表、市役所職員、施設運営者、管理者、ケアマネで構成され、皆さんからの貴重な意見をいただき、サービスの向上に活かしています
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	施設運営やサービスの課題、問題解決につながるよう、必要に応じて市へ相談・報告を行い、共に取り組んでいきます
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	必要な利用者がいないか常に職員間で話し合い、必要な方には制度がスムーズに活用できるよう、支援します
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	職員間で相談しあえる関係作りには取り組み、ストレスを無くし、虐待防止に努めます

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書・重要事項説明書にて十分な説明を行うと共に、施設の状況等を把握いただいた上で、不安や疑問点を確認し、理解・納得してもらっています	○	不安が生じていないかを利用者の立場に立って考え、思いを十分伝えられているか確認した上で契約を交わし、確認証にも署名・捺印をいただいております
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は話しやすい雰囲気づくりに心がけ、常に利用者の声に耳を傾けるよう努めています 利用者や家族からの要望は申し送りやミーティングで話し合い、できるだけ要望に添えるよう努めています	○	認知症の利用者でも、職員の働きかけにより自分の意見が表出できるよう支援します
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者は近隣の方が多く、家族の面会も頻回であるため、その都度報告していますが、必要に応じてはその都度電話連絡を行っています また、毎月の領収書・請求書明細と共にホーム便りを送付し、暮らしぶりを伝えています	○	ホーム便りは個々に作っており、個人の写真や行事の報告・担当職員からの様子を伝えるコメントも入れています
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前、ご意見箱を設置していましたが、全く利用が無く、家族より直接意見を伺っています 職員は意見を訴えやすいよう声かけし、信頼関係を構築するよう取り組んでいます	○	家族が意見を言いやすいよう、毎月の通信にアンケート用紙を同封し、いつでも受け付けられるように配慮しています
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員全員参加でミーティングを行っており、意見や提案を聞く機会を設けています また、必要に応じ、個々の意見を聞き、介護現場の改善に反映させています	○	運営者や管理者は日ごろから職員とのコミュニケーションを大切に、いつでも意見が言いやすい雰囲気を作ることで、職員の意欲向上につなげています
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務は、利用者の状況や、職員の意見を聞き取り、無理の無いように配慮し、調整しています	○	必要な支援が柔軟にできるよう、全職員が話し合い、臨機応変に対応します

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>○</p>	<p>やむを得ない移動や離職者があった場合は、利用者のダメージを最小限に留められるよう配慮し、普段どおりの生活が継続できるよう支援します</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>○</p>	<p>個人で受けた研修を施設に持ち帰り、職員全員のものとなるように話し合いを行っています 職員のレベルや経験に応じ、スキルアップできるよう職員同士で学び合い学習していきます</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>○</p>	<p>交流することで、悩みの解決やサービスの質の向上につなげていきます</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>○</p>	<p>職員の休憩場所には横になってゆっくり休めるようソファを2個設置しています</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>○</p>	<p>運営者は、職員が皆で成長していくという姿勢で、向上心を持って働けるような職場環境を作るよう、心がけています</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	自宅訪問や来所にて、状況によっては数回に渡り面接を行い、ゆっくりと時間をかけ、十分な聞き取りができるよう努力しています 様式を作り、聞き漏らしのないよう工夫しています	○	本人とじっくり面談し、自分の思いが十分伝えられることで信頼関係ができ、安心して生活できるよう支援します
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の前では言いづらい事もあるため、必要に応じ家族のみ別の機会を設けて聞き取っています 話しやすいムード作りに配慮し、信頼関係を構築するよう努めています	○	本人と家族、または家族間でも意見の食い違いがあるため、十分な聞き取りを行います
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の求めているニーズに沿ったケアができるよう話し合い、必要に応じては他のサービスの説明や情報を提供しています	○	本人・家族からの聞き取りを十分に行い、状況に応じたニーズを引き出し、ケアにつなげていきます
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設を見学してもらい、十分な説明を行ったり、他の利用者との交流や、デイ利用から慣れてもらえるような提案をするなどして、安心して利用につなげられるよう工夫しています	○	職員に馴染んでもらえるよう、必要に応じ自宅に訪問したり、電話等で連絡を取っています
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の職歴や生活歴、得意とする事から、習字のお手本を書いてもらったり、花や野菜の育て方を教えてもらったりしながら、年長者として尊敬し、共に学び、支えあうことで、信頼関係を築いています		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で暮しぶりや状況を話し合いながら、一緒に支えていく関係を築いていくよう努力しています	○	面会が少ない利用者でも、家族との関係が疎遠にならないよう、連絡を取ったり、毎月の通信で様子を伝え、会えない家族とも喜怒哀楽を一緒に感じあえるような関係を作ります
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族とのコミュニケーションを十分にとることで家族関係の理解を深め、より良い関係が築けるよう支援しています	○	入所により家族との距離が離れてしまうこと無く、良い家族関係が継続できるよう支援していきます
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者は近隣の方が多く、家族や友人・知人の面会も頻回にあります 面会者には職員が顔馴染みになるよう、気軽に声をかけたり、お茶を出すなどの接待により、面会しやすいムードを作っています 馴染みの床屋や喫茶店への外出支援も継続的に行っています	○	現在、馴染みのスーパーや薬局などへの外出支援を行っています 馴染みの場所への外出が、気軽に継続していけるような声かけを積極的に行っていきます
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	各フロア専属の職員の対応により、一人ひとりの性格や身体状況を把握しており、利用者同士が助け合ったり、孤立しないような関係作りができるよう配慮しています	○	洗濯干しやたたむ事などを利用者同士が助け合っています 個々の性格や身体状況でトラブルとなり得るため、席替えなどを行ったり、職員が間に入り、孤立しないよう対処します
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても気軽に相談できるような信頼関係の構築に努めています	○	契約終了後、問題が予想される場合は、経過を確認するなど、関係を断ち切らないよう努力します

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々のニーズを把握できるよう、十分にコミュニケーションを取るように留意しています 面会時や電話連絡にて家族からの情報収集にも努めています 困難な場合は、今までのアセスメントを元に、職員間で話し合い、検討しています	○	職員が一人ひとりの思いや希望に関心を持ち、個々の思いを把握できるよう支援します
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接において、専用のシートを用い、本人・家族から、漏れのないように入所前の暮らしの把握に努めています 入所後もコミュニケーションの中で知り得た情報をスタッフ間で共有し、理解に努めています	○	利用者に自分らしく生き活きと生活していただく為、個々を理解し尊重するよう心がけながら支援します
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活（排泄・食事・行動等）を細かく観察し、カルテに記録することで、職員全員が、利用者を総合的に把握できるよう努めています	○	一人ひとりの「できる力」を把握し、それを生活の中で発揮できる機会を作っていきます
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	状態が変化した時や、月1回の全員ミーティング等で意見やアイデアを出し合い、介護計画を作成しています	○	個人個人がその人らしく、より良い暮らしが継続できるよう、皆で気づきあえるような体制を作ります
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全職員で意見交換を行ったり、本人・家族の聞き取りから、介護計画を作成しています	○	馴れ合いにならないよう、常に新鮮な目を持ち、見直しを行います

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のカルテにより全職員が情報を共有し、共通理解の下、介護計画の見直しを行っています	○	利用者の最も身近である職員が、日常のケアの中での「気づき」を具体的に記録に残し、より良いケアができるよう努力します
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時の状況や要望に応じて、デイの慰問・行事に参加したり、通院・喫茶店等の外出介助を行っています また、利用者家族に不幸があった場合、お通夜・葬儀に利用者の送迎を行ったりもしています		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察や消防には挨拶に伺っています 地域のボランティアの定期的な慰問（お茶・音楽・ダンス等）や小学校との交流も行っており、協力しながら支援しています	○	重度化している利用者も多く、災害時の助け合い等を地域の自治会や民生委員さんと話し合っています
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	研修に参加したり、地域包括と相談したりして、情報収集に努め、本人の状況に応じて他のサービスが利用できるよう、情報提供をしています	○	包括が開催する地域連絡会議やケアマネ同士の集まりに参加し、情報収集をしています
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括と連絡を密にし、必要に応じて相談を依頼できる関係をとっています		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>母体が医療法人であり、常に連絡を取り、支援しています ホームに、母体法人の医師が毎日訪れ、状態を把握しています また、協力医院の確保もできており、適切な対応を心がけています</p>	○	本人や家族の希望・状況により、他の病院への受診も支援しています
44	<p>利用者の状態を、随時主治医に報告したり、症状に応じて専門医等による往診・受診が受けられるよう支援しています</p>		
45	<p>職員に常勤看護師がおり、相談しやすい体制となっています 個々の状態に合わせた細かな対応を話し合い、看護と介護が協働し、支援しています</p>	○	緊急時にも柔軟が対応が取れる体制になっています
46	<p>入院した時点から早期退院に向け、入院先に出向き、本人の状態把握や、本人・家族・病院との話し合いを実施しています</p>	○	長期入院による廃用症候群の防止の為に、短期間の入院ですむよう支援します
47	<p>契約時に本人・家族からの要望を確認しています また、ミーティング時や主治医等の話し合いで、方針を共有しています</p>		
48	<p>契約時や状態の変化時に本人・家族と相談しています 主治医とも常に連絡を取り、随時報告・相談をしたり、ミーティングでターミナルケアについての勉強会を行っています</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退所等で住居が変わる場合は、家族や他の関係者と、それまでの生活習慣や身体状況等、細やかな情報交換を行い、ダメージを防ぐよう努めています	○	母体が医療機関であることのメリットを利用し、急変時にもできる限りの対応を心がけ、移り住むダメージを防止し、「終の棲家」として入居できるホームを目指しています
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねることのないよう、時には場所を変えて話を聞いたり、一人ひとりの性格や状況を考慮し、個人を尊重した言葉かけをするよう心がけています 記録の保管や取り扱いにも十分な配慮をしています	○	全職員がプライバシー保護について常に意識しながら支援します
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定できる方には、利用者の希望を聞き、好みのテレビ観賞や習字・レク参加等をしてもらっています 困難な場合は、能力に応じた声かけにより、納得し充実した生活がしていただけるよう支援しています	○	自分の気持ちを素直に表出できない方や、認知症の為判断力が低下している方でも、その人にあったコミュニケーション方法（言語的・非言語的）により、その人が求めるその人らしい生活が送れるよう支援します
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活歴や習慣、趣味などを考慮し、「その人らしさ」を大切に考え支援しています（本屋や喫茶店等への外出介助や、食事の習慣・嗜好等）	○	本人の希望で入浴時間を午前や午後に変えたり、食事内容をパンや麺類に変えたりして、できるだけ希望に添えるよう配慮しています
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	できる方には、好みやその日の気分により服を選んでもらっています できない方には、簡単な選択肢を準備（2種類から選ぶ等）し、自己決定できる場面を作る工夫をしています 理美容に関しては、個々の希望でホーム訪問か行きつけの所かを選択してもらっています	○	女性にはメイク療法を取り入れています できるだけ、自分で選択できるような促し、声かけを行い、生活に潤いが持てるよう支援します

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の調理は1階の厨房で個々の状態に合ったものが作られていますが、能力や今までの生活環境に応じて、テーブル拭きやお茶の準備、食器の片付け、日によっておやつ作りなどを一緒に行っています また、利用者家族も参加できるバーベキューなどを開催し、一緒に調理する機会を作っています	○	重度化している利用者も多く、毎食調理することは困難ですが、おやつ作りやすき焼き、鍋パーティーなどの機会を設け、食の楽しみを感じていただいています
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品は本人の希望や家族との話し合い、身体状況に合わせ、できるだけ自由に楽しめるよう支援しています	○	一人ひとりの好みを大切にすることで、周りの方とのトラブルや迷惑にならないよう配慮しています
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用い、個々の排泄パターンを把握し、失敗を防ぐよう支援しています 排泄に関しては、特に個人の尊厳に配慮した個別的ケアを心がけています	○	個々の状態により、オムツやパットの使用を減らしたり、失敗のないようにできるだけトイレで排泄できるよう支援しています
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週3回入浴の機会を確保していますが、汚染があった場合などはその都度対応し、清潔保持に努めています 個々の希望（午前・午後等）やタイミング・状態に合わせた入浴スタイルを尊重し、ゆったりと入ってもらえるよう支援しています	○	個々の希望を十分聞き取り、午前・午後に分けて入ってもらったり、季節により露天風呂にて足湯を行っています プライバシーにも配慮し、職員が1:1で介助しています また、安全にゆったり入浴できるよう状態に応じて器械浴にて職員が2人で対応しています
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の様子や希望により、時にはリビングのソファで、時には居室のベッドで自由にくつろいでもらえるよう支援しています 不眠を訴える場合は、レクや体操などを促し、日中の活動量を増やすことで、安眠できるような働きかけをしています	○	睡眠時間だけに囚われず、数日間の様子や本来の生活習慣（日中もよく眠る方、睡眠時間が少ない方等）も考慮し、総合的に支援しています 時には1階に降り、おやつを持ってきてもらうなど、役割を持つことで精神面での安定も図っています
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の能力や生活歴に合わせ、植物を育てたり、喫茶利用等により、楽しみごとを増やしたり、自信を持ってもらうことで、生き活きと生活できるよう支援しています	○	今後も一人ひとりの希望を十分聞き取り、生きがいを持って楽しく生活していただけるよう支援していきます


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族と話し合い、一人ひとりの力に合わせた管理を行っています	○	認知症や機能低下のため管理できない方でも、小額でも自分で持つことで安心できる方には、それぞれに合った対応をしています
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や季節、天候に応じて、周辺への散歩や本屋・喫茶店・薬局・スーパー等への外出を支援しています	○	ホームの中で閉じこもることのないよう、個々の希望や生活習慣を把握し、楽しみごとを作るよう配慮しています
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	No.61の普段の外出に加え、季節ごとの外出（花見・紅葉見物等）は、家族の参加も募って一緒に出かけています	○	個別対応として「DVDを借りたい」「昔馴染みの喫茶店に行きたい」等、一人ひとりの希望に添った対応をしています
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、いつでも電話や手紙のやり取りができるよう支援しています	○	本人・家族の希望で、携帯電話を持っている方もみえ、使用に関しては介助しています 手紙を書けても、自分から積極的にできない方には進んで書いていただけるような促しも行っています
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会人には気軽にいつでも自由に来ていただけるよう、職員がお茶などの接待をし、声かけにより一緒に会話を楽しんでいます 状況・希望により、ゆっくり話ができるよう、居室に案内しています	○	地元地域からの入所者が多く、昔馴染みの近隣の方や友人、婦人会、日赤奉仕団で活躍されていた頃の同志の方等の面会も頻回にあります
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修やミーティングにおいて拘束の理解を促し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます	○	「動かないでください」「どこへ行くのですか？」という声かけでも、本人にとっては拘束になり得るということを全職員が認識し、個人の尊厳を守るよう支援します

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが2・3階で、階段やエレベーターがあり、建物は交通量の多い道路に面しており、安全確保のため出入り口は施錠していますが、入所時に本人や家族に説明し了承を得ています リビング南側は全面ガラスで、中庭からの採光も十分にあり、閉塞感は無いと思われま	○	鍵をかけることで、利用者や家族・地域の方々に、疎外感や閉塞感等の心理的な影響が出ないように心がけていきます
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の生活習慣や性格、身体状況を把握し、物音や排泄パターン等に配慮しながら、安全に生活できるように努めています	○	職員はできるだけ利用者の様子を確認できる位置にいるよう留意し、プライバシーの保護にも配慮しながら対応しています 職員が一人になる時間、認知症の為コールできない方等にはベッド柵に鈴を付ける等の工夫をしています
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人・家族・職員とで話し合い、個々の状態に合わせて、本人が納得していただいた上で、個人や職員が保管・管理しています	○	ハサミや包丁等の注意の必要な物品は、決められた場所に保管し、職員の見守りの下、使用しています
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各自が研修等で得た知識を持ち帰り、全職員で共有できるよう勉強会を行っています ヒヤリ・ハットや事故報告書の活用、危険予知防止訓練等を行い、事故防止に努めています	○	事故発生時には、事故報告書で細かく状況を記入し、毎日の申し送りで報告したり、申し送りノートに添付し、全職員で確認・検討しています
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ミーティングや申し送りにて、看護師より対応の説明を受けています	○	応急手当の方法をファイリングし、全職員が確認することで、実際の場面で対応できるよう話し合っています
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害防止マニュアルを作成し、災害時に備えたり、運営推進会議の場で、自治会長や民生委員と話し合い、地域の協力が得られるよう了承していただいております	○	デイの職員と合同で避難訓練を行い、いざという時の為に備えています 災害時には地域と助け合えるような体制作りに取り組んでいきます

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p> <p>本人・家族へは入所時に説明しています 身体状況の変化等で、その時々での最適な対応策を話し合っています</p>	○	<p>利用者の安全が第一ですが、安全を優先するあまり自由が失われ、その人らしい暮らしができなくなる弊害もある為、できるだけ抑圧感の無い生活が送れるようチームで話し合い、支援してまいります</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> <p>個人カルテや申し送りノート、バイタルチェック表の活用により、情報を共有し、速やかに対応できるよう努めています</p>	○	<p>普段の様子をよく知ることで、変化や異常の早期発見に努め、迅速な対応ができるよう心がけています</p>
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> <p>処方箋をカルテにファイリングし、全職員が理解しています 服薬に関しては、飲み忘れ・飲み間違い防止のため、必ず複数の職員で確認し、チェックシートに記入しています 変化が生じたときや、薬が変わった時はカルテに記入すると共に、申し送りで伝えています</p>	○	<p>状態が変わった時は、速やかに医師や看護師、家族に伝えています</p>
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> <p>排泄表を用い、日にちや時間・回数・便の量や状態を確認し、排泄パターンを把握しています 便秘の方には運動を促したり、水分・食事量に注意し、おやつの変更等、工夫しています</p>	○	<p>入浴時や排泄介助時に腹部マッサージを行っています 排便は一人ひとりのサイクルや習慣がある為、個々に合った対応をしています</p>
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> <p>口腔内の汚れは、その都度個々の機能状態に応じて支援しています</p>	○	<p>口腔ケアの重要性を認識し、本人の習慣や能力を活かしながら手入れの支援を行い、口腔内の清潔保持に努めます</p>
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> <p>栄養士により一日約1700kcal前後の食事を提供しています 摂取量はスタッフが介助しながら把握し、記録に残しています</p>	○	<p>食事量や栄養バランスに偏りが無いよう気をつけています</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症やそのケアについての取り決めは、法人医師から細かく指導があり、施設内に提示し、全職員が周知しています	○	主な感染症に対するの対処方法を研修室に貼り、実際の対応が正しく迅速にできるように話し合っています また、感染症予防の勉強会（手洗い講習）等も行っています
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	1階厨房にて調理されており、衛生的に管理されています 各フロアの管理はスタッフが実施・確認し備品等は清潔に取り扱われています	○	台所は毎日掃除・整頓し、冷蔵庫内の食品の賞味期限等のチェックも行っており、清潔保持に努めています
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は全面ガラスで明るく開放感があり、季節ごとの花が飾られ、出入りしやすい空間となっています	○	玄関がガラス張りになっており、建物に面している道路から受付が見え、気軽に立ち寄ってもらえるような作りになっています
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング南側は全面ガラスで明るく、時間や気候によりカーテンや窓の開閉で音や光を調整し、不快感を与えないよう配慮しています 食卓や洗面台に花を飾ったり、ベランダや中庭で利用者と共にプランター菜園を行い、季節感を楽しんでもらっています	○	フロアの壁に利用者と職員が共同で作った作品や写真を飾り、楽しんでいただいています 一人ひとりの感覚や生活習慣を把握し、利用者にとって居心地の良い場所となるよう配慮しています
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓や床上げした畳の上で利用者同士が歓談したり、一人用ソファでゆったりとくつろいでおられます 冬場は廊下の日当たりの良い場所に移動して、気の合う利用者同士で日向ぼっこをしながら会話している場面もよく見られます	○	プライバシーに配慮し、気兼ねなく落ち着いてくつろぎながらも、人の気配を感じられることで孤独とならないようなスペース作りを工夫しています

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだダンスや寝具、絵、仏壇、趣味の道具などを各々が持ち込まれたり、写真を飾ったりして、安心して生活できるような環境が作られています	○	居室では個々の趣味や馴染みの物、大切にされてきた物を持ち込んでいただき、安心して生活していただけるよう支援しています
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコンが完備されており、利用者の希望を確認しながら、適切な温度・湿度に保たれるよう配慮しています また、季節や気温、時間帯により、窓の開閉でも調節しています	○	エアコンのフィルター掃除や点検は定期的に行っています 臭いや温度・湿度等の影響で気分や体調を崩されることもある為、利用者の様子を見ながら調整しています
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の水場は水はけの良い床材を使用し、転倒防止しています 廊下・浴室・トイレ等には手すりが設置され、各々のADLに合わせた支援をするよう努めています	○	転倒の危険がある利用者でも、拘束することなく、できる限り自分の力で動いてもらうよう、ベッド柵に鈴をつけ、音で職員がすぐに駆けつけられるような工夫をしています 場所が分からないことで不安にならないように、目印や名前をつけています
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	専任の職員が一人ひとりの能力を把握し、活躍できる場面を作ることで自信を持ち、自立した生活ができるよう支援しています	○	個々の心身の状態に応じて、場所の目印を付けたり、紙に書いたりすることで失敗を防ぎ、不安を取り除くよう支援します
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周辺やベランダ・中庭で、プランター栽培を行っており、利用者から花や野菜の育て方を学んだりしながら、職人と共に楽しんでいます	○	季節によりベランダや廊下で日向ぼっこをしたり、お茶を飲んだりしています 天気の良い日は外に洗濯物を干したり、夏場は中庭を利用し、ネットで2Fから3Fに朝顔のツルを伸ばし、一緒に楽しんでいます

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者、職員共に近隣地域からの方が多く、入居前の在宅での生活を大切にしながら、馴染みの関係を崩すことなく継続することで、認知症状の改善・安定を目指し、一人ひとりがその人らしく暮らしていただけるよう支援しています。

家族や友人、知人など馴染みの方の面会も頻回にあり、遠慮することなく来訪していただけるような配慮を、職員一同心がけています。

今後はさらに地域交流を深め、より地域に密着した施設となるよう取り組むと共に、常勤看護師による健康管理及び運営母体である医療機関との連携により、安心して生活していただけるよう支援します。